

同じ大学、同級生でアベックV



<女子>

藏座主将は強かった

19人が出場した女子で東海大九州の選手は約半分の9人が出場。その中で栄冠を手にしたのが女子部のキャプテン・藏座だ。3年ながら主将を務めるが、それは4年が1人もいないため。3年も彼女だけが、後輩に手本を示すようなラウンドとなった。アウトは3番ロングでバーディーを奪って、ノーボギーの35。インに入ると、10番ロングで残り40ヤードから1打弱につけて2個目のバーディー。しかし、11、12番で3パットの連続ボギーでイーブンに。続く13番ミドルでは2・5打のパーパットを残した。「あれが入ったのが大きかった」と藏座本人が納得したパーセーブ。これで気を良くして15、17番のバーディーへとつながっていった。



身長は145㌢。「小6から変わっていないんです」と苦笑いするが、ゴルフの技術は確実に上がっている。ドライバーの平均飛距離は高校時代より15㌢伸びて230㌢。週2回のウェイトトレーニングや冬場の1日1000回の素振りなどで体幹も強くなった。

5月の九州女子アマでは上位に食い込めず、日本女子アマへの出場権を逃した。それだけに、8月の日本女子学生選手権への思いは強い。「ぜひ優勝したい」。体は小さくても、目標はでっかい。

2位の永江綾（2年連続で2位）「調子は良く、2～3アンダーは出したかった。ショートパットのバーディーが4つもあったのに全部外したのが悔しい。次は勝ちたい。来年こそ優勝します」

<男子>

中村は第1ラウンドのミスを取り返す

ピンチに強い、タフな性格の持ち主かもしれない。中村は第1ラウンドの序盤の1、4番でバーディーを奪い、好スタートを切った。しかし、6番ミドルでバンカーからの第2打をグリーンオーバーして林の中へ。ここで木々につかまり、結局6オン1パットのトリプルボギー。8番ショートで1つ取り返すものの、9番ミドルでもダブルボギー。めげそうになるところだが、中村は「ショットの調子もいいし、終わっていない。試合は36ホールだし、チャンスはある」と気持ちを切り替える。インで3バーディー、ノーボギーの33で回り、結局、第1ラウンドは71でトップタイ。第2ラウンドは5バーディー、1ボギーの文句なしの68で2位に3打差をつけての快勝となった。

北九州市小倉北区の出身で小学3年からゴルフを始めるが、主なタイトルはない。「優勝の実感は湧きません。むずむずしているし、そわそわしています」というのが優勝決定直後のコメントだった。得意なクラブはドライバーで、平均飛距離は290㌢。身長は169㌢。現在の体重はウェイトトレーニングなどの効果もあって入学時より10㌢増えて80㌢。それが安定した飛びにつながっている。名前は志風と書いて「しなぎ」と読む。「お母さんがつけたんですが、画数や運氣、それに好きな字だったようです」と説明する。個人戦では初めての全国大会。「自分のゴルフがどこまで通用するか。順番もはっきりするし、自分が全国でどのくらいに位置するかも分かります。上位を狙っていきたい」と中村



は心を躍らせている。

2位の坂本隆一（第2ラウンド68）「もう少し伸ばしたかった。（第1ラウンド7番のトリプルボギーは）ちょっと欲張ったかな、と思います。あとの方になるほどスコアが良くなるのは、体力がついたかな、と思います」